

コース名		科目名			対象学年		
個体の反応 病因と病態		生体と微生物3 (寄生虫)			2		
開講学期		科目責任者		副責任者			
2 学期		内藤 忠相					
目的							
感染症の病原体は、ウイルス・細菌・真菌・寄生虫・プリオンである。寄生虫（原虫・蠕虫）は真核生物であり、ウイルスや細菌よりも複雑な生命機構を持っている。本科目は、原核生物である細菌についての「生体と微生物1（細菌）」を学修後、寄生虫の基本的性状と病原性によって生じる病態を理解するために必要な科目である。							
授業到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 寄生虫を単細胞の原虫類と多細胞の蠕虫類（線虫・吸虫・条虫）に分類でき、それぞれの形態学的特徴を説明できる。 2. 寄生虫の生活史と人体への感染経路を説明できる。 3. 主な寄生虫の寄生部位を挙げるができる。 4. 宿主・寄生虫相互関係の概念を理解し、人獣共通寄生虫症を説明できる。 5. 蠕虫感染における生体防御の特徴（好酸球増多・IgEの上昇）を説明できる。 6. 日和見寄生虫症を列挙でき、それぞれの重症例を説明できる。 7. 寄生虫症の診断・治療・予防の概要を説明できる。 8. 外部寄生虫であるダニ・シラミの形態学的特徴を説明でき、それぞれの病害を挙げるができる。 9. 節足動物が媒介する寄生虫症・リケッチア症・スピロヘータ症・ウイルス症を挙げ、それぞれの媒介者名を列挙できる。 							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	9/ 2	月	2	講義	沖野	微生物	寄生虫学総論
2	9/ 2	月	3	講義	沖野	微生物	有害節足動物概説
3	9/ 3	火	4	講義	沖野	微生物	ダニ媒介性疾患
4	9/ 3	火	5	講義	沖野	微生物	原虫類総論・臓器と原虫感染症（消化管・泌尿・生殖器）
5	9/ 5	木	2	講義	沖野	微生物	日和見原虫症1（AIDSでみられる原虫症）
6	9/ 5	木	3	講義	沖野	微生物	日和見原虫症2（AIDSでみられる原虫症・真菌症）
7	9/ 9	月	1	講義	沖野	微生物	輸入原虫症1（熱帯・亜熱帯）
8	9/ 9	月	2	講義	沖野	微生物	輸入原虫症2（熱帯・亜熱帯）
9	9/11	水	2	講義	沖野	微生物	線虫類総論・臓器と線虫感染症1（消化管）
10	9/11	水	3	講義	沖野	微生物	臓器と線虫感染症2（筋・リンパ管）
11	9/12	木	2	講義	沖野	微生物	幼虫移行症（人獣共通寄生虫症）
12	9/12	木	3	講義	沖野	微生物	吸虫類総論・臓器と吸虫感染症1（消化管・肝臓）
13~15	9/18	水	4~6	実習	齊藤峰・内藤 塚・沖野 三浦未・後川	微生物	マラリア原虫類の検出と観察
16	9/24	火	4	講義	沖野	微生物	臓器と吸虫感染症2（肺・血管）・条虫類総論
17・18	9/24	火	5・6	実習	齊藤峰・内藤 塚・沖野 三浦未・後川	微生物	原虫類のシスト・蠕虫類の虫卵・寄生虫による病変組織像の観察
19	9/27	金	4	講義	沖野	微生物	臓器と条虫感染症1（消化管）
20・21	9/27	金	5・6	実習	齊藤峰・内藤 塚・沖野 三浦未・後川	微生物	アニサキス幼虫の形態と病理標本の観察
22	9/30	月	4	講義	沖野	微生物	臓器と条虫感染症2（皮下・脳・肝臓）・まとめ
	10/ 5	土	2	講義末 試験			講義末試験

評価方法
<p>[講義末試験]80% (講義に関するもの70%、実習に関するもの10%) [実習点]15% (実習点としてスケッチレポート1回提出ごとに5点満点で評価します (3回提出で合計15点満点)。 [出席状況 (受講態度)]5% (出席状況により加点を行う (全出席で5点、1回欠席ごとに1点減点、5回欠席で0点)) [評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験、出席・受講態度評価、論文・レポート</p>
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて
<p>試験後、模範解答を公開する。実習のレポートは、添削した後、返却する。</p>
教科書
<p>ISBN-9784525170202, 図説人体寄生虫学改訂10版, 吉田幸雄原著 ; 日本寄生虫学会「図説人体寄生虫学」編集委員会編, 南山堂, 2021</p>
参考書
<p>ISBN-9784524218851, NEW 寄生虫病学 (Nankodo' s essential well - advanced series), 小島 莊明 (編集), 南江堂, 1993/08 ISBN-9784263201336, エssenシャル寄生虫病学, 多田 功・大友 弘士, 医歯薬出版, 1999/11</p>
準備学習 (予習・復習等)
<p>予習: 前もって、教科書『図説人体寄生虫学』の該当部分 (各項の左頁の要旨の部分) に目を通しておくこと。 復習: 配布するプリントで復習する。 予習・復習について、各々最低30分から1時間ほどは必要と考える。</p>
講義についての注意事項
<p>講義を集中して聴いてください。 実習では、繰り返し実施することが困難な生きた材料を扱うので、欠席しないよう心がけてください。 講義中に質問などがあれば積極的に発言してください。</p>
昨年度からの変更点・改善項目
<p>CBT や国試で、寄生虫の画像を扱った出題が多くみられるため、できるだけ実物 (標本) を見せる機会を増やした。</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について
<p>この科目は、卒業時コンピテンスのうち主に「2. 全身におよぶ生理的变化や構造の異常を病因や病態と合わせて説明することができる」および「3. 病態から臨床症状、診断方法や治療方法を説明することができる」の達成に向けて設定されている。また、4年次の「感染症」を学修するための基礎科目である。</p>
ナンバリング
<p>BPPA217</p>